『宗鏡録』編纂の時代背景と永明延寿の生涯

柳　幹康

今回は『宗鏡録』編纂の時代背景と永明延寿の生涯を概観することで、延寿が『宗鏡録』に託した思いを明らかにします。

『宗鏡録』の編者延寿が生きた五代十国時代は、中国全土が戦火に包まれた動乱の時代でした。五代十国時代は、三百年もの命脈を保った統一政権の唐が亡ぶ九〇七年から、次の統一政権の宋が建国される九六〇年までを指します。このわずか五十年あまりの間に、北方では五つの王朝が目まぐるしく交替し、北方から南方にかけては十の諸国が各地に割拠し覇を競いました。人々は絶えぬ戦火に巻き込まれて塗炭の苦しみに喘ぎ、中国の人口の実に三分の一から二分の一が失われたといいます。

また唐末から五代十国にかけて、中国仏教も大変な打撃を被ります。中国における大規模な仏教弾圧計四回のうち、二回までもが唐

末五代に相次いで断行されました。一度目は四回の弾圧のなかでも最も苛烈を極めた唐末会昌の廃仏（八四二―八四五）で、ごく一部の例外を除く中国全土において、数多くの寺院が破壊され、無数の経典が焼き捨てられました。二度目は五代十国時代に北方で成立した王朝後周が九五五年に行ったもので、その領内の仏像・仏具が次々とつぶされて銅銭に改鋳され、軍事費に充てられました。

このような受難の時代にあって、中国仏教の避難港となったのが、延寿が生きた呉越国です。呉越国は東シナ海に臨む両浙地方（現浙江省）一帯を支配した国で、歴代の国王はみな仏教を篤く奉じました。加えて呉越国は地の利を活かして当時例外的に小康状態を長く保ったため、難を逃れた僧侶が各地から領内に雲集し、その首都杭州は仏教の一大中心地となったのです。

歴代の呉越国王のなかでも特に仏教を篤信したのが第五代国王銭弘俶（在位九四八―九七八）であり、延寿はその尊崇を一身に集めた禅僧です。延寿が生まれたのは唐が滅亡する三年前の九〇四年、その家族は延寿誕生以前かその後間もなくに隣国から呉越国に移り住みました。延寿は実直な性格で、幼い頃から仏教に思いを寄せます。成人後は官吏として国に仕えますが、後に妻子を捨てて出家しました。山中で深い禅定に入っていたところ呉越国の国師天台徳韶（八九一―九七二）に見出され、彼より禅宗の一派である法眼宗の法を嗣ぎます。九六〇年、国王銭弘俶に招かれて国都杭州の霊隠寺に住持し、その翌年には再び銭弘俶の招聘を受けて永明寺（後の浄慈寺）に移り、そこで晩年の十五年を過ごしました。延寿はその生涯において七十九部もの書物を著したほか、放生や授戒・

懺悔など多岐にわたる仏教活動に勤しんでいます。九七六年に病を得ると、香を焚いて弟子たちに別れを告げ、結跏趺坐して示寂しました。

延寿の主著『宗鏡録』は、彼が最後に住した永明寺で編まれたものです。その成書は九六一―九六四年、分量は実に百巻にも及びます。延寿は国王銭弘俶の全面的な庇護の下、当時能う限り多くの仏典を漁って要文を集め、『宗鏡録』のなかに収めました。銭弘俶は『宗鏡録』に寄せた序文において同書を「奥深い言葉を遍く収めた」書物と讃歎しています。また作者の延寿自身も次のように述べています。

優れた師や仏道を志す友に遇って正しい教えを聞くのは非常に得がたいことである。……経典や人の説示により悟るところがあれば、それはみな自身の師である。ましてやこの『宗鏡録』は（仏典の）要文のみを収録したものだ。家から一歩も出ることなく天下のことを知り、足を動かすことなく竜宮に到れ（るように、『宗鏡録』を読むだけで仏教の深奥に達することができ）よう。

（『宗鏡録』巻四一）

つまり延寿は仏典が失われゆく時代にあって、せめて仏教のエッセンスだけでも後代に残し、後の人々が悟りにいたる道を確保しようという思いを込めて、百巻にも及ぶ浩瀚の書『宗鏡録』を編んだのでした。

柳幹康（やなぎ みきやす）
一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所専任研究員・専任講師。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究――一心による中国仏教の再編』（法藏館）。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の官製はがきを使用し、
各三句（首）までを読みやすく書いてお送りください。
＊〆切りは毎月1日です。

花園へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。
お待ちしております。

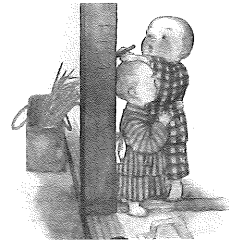
送り先
〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園　係

＊住所、氏名を必ずお書きください。
＊俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。（他誌投稿作品、転載は不可）
＊なお投稿はお返しいたしません。

花園 hanazono
「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花　園】第67巻 第5号（通巻第789号）
平成29年5月1日発行（毎月1日発行）
定価55円
【発行人】栗原正雄
【編集人】畠中寿浩
【印刷人】阿部乙彦
【発行所】〒616-8035　京都市右京区花園
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400番
電話／075-463-3121番

表紙の絵　「大きくなったよ」



家族が当たり前のように暮らす日々。
何気ない日常こそが幸せですね。
絵・SAYOKO

妙心寺派ホームページ…… http://www.myoshinji.or.jp
臨黄ネットワーク（臨済宗・黄檗宗全般）…… http://rinnou.net

『花園』誌一冊送りの年間購読料は、1,560円（送料込）です。
お申し込み・お問い合わせは頒布課まで。

＊乱丁、落丁本はおとりかえいたします。